

学校運営協議会議事録

	校名	大阪府立東住吉高等学校
	校長名	西田 恵二
開催日時	令和8年1月23日(金)14:00～16:00	
開催場所	東住吉高校 校長室	
出席者(委員)	竹内会長、川本副会長、南野委員、菅原委員	
出席者(学校)	西田校長、和田教頭、松元事務長、安達首席、成川首席	
傍聴者		
協議資料	令和7年度学校経営計画及び学校評価 学校教育自己診断 授業アンケート結果 令和8年度学校経営計画	
備考		

議題等(次第順)	
報告 令和7年度学校評価・学校教育自己診断結果・授業アンケート結果・令和8年度学校経営計画	
協議内容・承認事項等(意見の概要)	
【令和7年度学校評価・学校教育自己診断結果・授業アンケート】 〈教育相談〉 ・肯定的回答が生徒向け79%に対し、教員は97%とギャップがあるが、要因は。 ⇒担任、保健体育部が連携をとりながら組織的に対応しているところ。自分には関係がないと感じている生徒が一定数いるが、メンタルの不調はどの生徒も陥る可能性があるので、体制を構築できていることは評価できると考えている。 〈ボランティア活動への参加〉 ・保育園の実習など地域交流をしていると思うが、地域でボランティア活動をする人数が減少しているので、学校と連携した取り組みができる地域としては助かる。 ⇒ボランティア活動の時期にもよるが、そういった話があれば学校にお知らせいただきたい。 〈いじめアンケート〉 いじめアンケートと自己診断の質問内容は同じか。また、いじめの対応について自分と関係がない生徒は肯定的な回答をしないのか。 ⇒いじめアンケートを年3回、自己診断を年1回実施しており、質問内容は異なる。いじめがないことを確認するのではなく、いじめとなる事象があるのか、それによってしんどくなっている生徒がいないかどうかを把握し、迅速かつ適切な対応ができるように今後も生徒の様子を注意して観察していく。 〈進路実現について〉 進路に対する意識付けはいつ頃からしているか。生徒が主体となって進路を考えていくことが大切である。 ⇒1年生で分野別説明会を実施するなど、進路指導部が中心となり早い段階から卒業後の事を考える場面を設定している。また、探究的な学習にも力を入れていき、情報を自ら発信する力を身に付け、総合型選抜にも挑戦する生徒を育みたい。 〈全体〉 ・評価に△が複数あるが、目標設定が80、90%を超える高い数値なので、1～3%減少は誤差の範囲である。授業アンケートの評価について、昨年からわずかに減少しているが、2年前と比較すると高評価である。また、教員の自己診断結果では、大幅な増加が見られることから、校長がめざす方向を教員が理解し、チームとして対応できている証拠である。 【令和8年度学校経営計画】→承認 ・7年度より改善すべき内容が反映されており、具体的にわかりやすく記載されている。“ひいては日本”に加え、万博での披露等もっとひろく“世界”を加えてもいいくらい素晴らしい取り組みをしている。 ・課題研究及び発表はチームで行う方が、効果がある。今後、模索しながら、クラスの垣根を超えて分野別にも実施することも考えられる。他校の取り組みも参考にしながら、社会で活躍するために必要な力を育んで欲しい。教員が生徒とどのように関わり、成長に繋げていくか、成果をあげるための仕組み作りに励んでもらいたい。 ・ヒガスミ育成プログラムは継承されなければ意味がないので、引き継ぎが大切。 ・英語の取り組みは重要である。進学するうえで英語の学力は求められる。学校としてもグローバルな人材育成を目標としている。単語も重要な力であるので、単語テストは継続するべき。卒業してからもっとやっておいたらよかったと思うのが英語である。子どもたちにも意識付けをして、意欲的に取り組んでもらいたい。	
日時	令和8年6月26日(金)14:00～16:00
会場	東住吉高校 校長室